

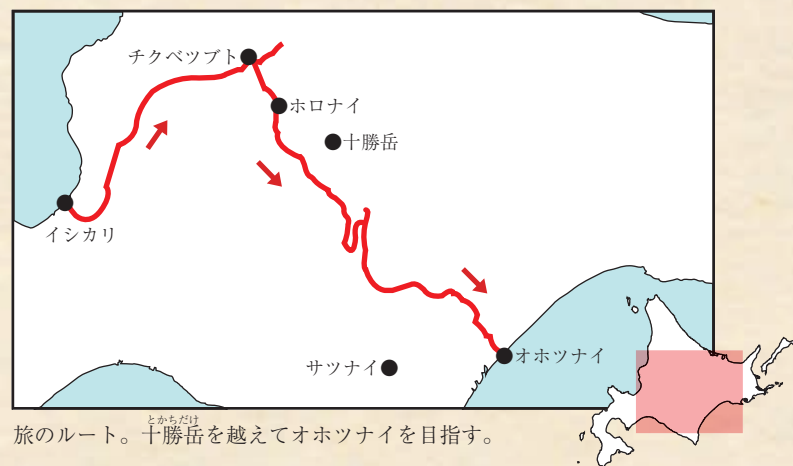


十勝岳連峰の峠を越えて帯広から十勝川沿いに太平洋側へ至る経路を記した地図。

その後、同じ年の7月に歴舟川から上り、いずれも十勝川支流の札内川、戸蔦別川、美生川、芽室川、然別川、音更川、利別川、浦幌川を越え、太平洋岸へと下った際の記録は、その報告を記した十勝誌4巻から、他の日誌として後日続編として1冊にまとめたいと考えています。

ですので、この書は、主に石狩から十勝への山越えの概略を書き記した内容となっています。この本を手にしてくださった皆さんも以上のようなことを理解した上で、じっくりと読んでいただきたいと思います。

万延元年庚申（安政5年・1858年）の初冬、江戸牛込杉並の庵にて源の弘（松浦武四郎）が記す。



旅のルート。十勝岳を越えてオホツナイを目指す。